

## 2009 年 9 月 29 日 外務省交渉記録

文責：辺野古への基地音説を許さない実行委員会 省交渉チーム

日時：2009 年 9 月 29 日午後 3 時～3 時 30 分

場所：外務省 6 階北米局応接室

出席者

○外務省：2 名

北米局日米地位協定室 伊藤錬課長補佐

北米局日米安全保障条約課日米地位協定室 坂本賢一課長補佐

○辺野古実：5 名

<会> お忙しいところを申し訳ありません。私どもは辺野古への基地建設を許さない実行委員会という団体で、この 4 年間ずっと辺野古への基地建設に反対する運動をやっております。9 月 1 2 日に「沖縄に基地はいらない ジュゴンの行進！」というデモンストレーションをやりました。その時の決議文をざっと読ませていただいて、そのあと少しお話を伺えればと思います。決議文読み上げ（略）

<外務省>是非お話ししたいので、必ず読みますし、大臣にも伝えますので。少しお話をさせていただいた方がよろしければそうしたい。時間があまりないということだけ。

<会> 何分ぐらいいただけるのでしょうか？

<外務省>山内事務所からは 10 分程度と伺ったものですから、ちょっともう過ぎているのですが。

<会> 2 番は省略する。3 番も普天間飛行場の即時閉鎖を要請しています。これも主として防衛省でしょうが外務省も是非お読みいただきたいと思います。世界一危険な基地でヘリコプターの事故もありましたが、SACO 合意から 1 3 年経ちましたが、まだ全然閉鎖の目途が立っていない、そういう状態ですのでできるだけ早く閉鎖することを要請します。以上が私たちの要請です。

<外務省>ありがとうございました。わざわざご足労いただきましてありがとうございました。私は北米局の地位協定室というところで、普天間代替施設を含めてですね、沖縄における米軍の再編の事業を担当しております伊藤と申します。もうこのポストに 2 年半ぐらいおましてですね、地元にも何度か足を運ばせていただいたことがございますし、また、皆様方の要望ですね、皆さんにお会いするのは今回が初めてでございますけれども、いろんな方とお会いしてですね、住民の方も、また環境保護の関係の方も、あるいは、沖縄県庁や市役所やお役所といろいろお話してですね、十分に分かっているとはとても言えませんが、様々な観点からの声を、環境保護の関係の方々も含めてですね、いろいろと承っておりますので、この今日いただきましたご意見ご要望の内容をしっかりと読んだ上でですね、政策に反映できるように部内でも検討に役立てるということを勿論お約束しますし、また外務大臣にもですね、しかるべく新しい岡田大臣にもお伝えするということをお約束申し上げます。その上で、これは 1 9 9 6 年の SACO からですね、既に 1 3 年やっておる話でございます、これは私が分かりました、こう

しました、と言える案件では勿論ない訳でございますけれども。まず、ひとつその、もうお分かりのことを繰り返すなんてことは致しません、皆さんは重々ご承知ですから、我々が考えておることと皆さんが考えていることとで、今の時点でまずは接点があると思うのは、環境影響評価でございますけれども、いろいろと不備があるというご指摘もあるのかもしれませんが、直接は防衛省がやっておる案件でございますが、環境団体や環境に知見のある皆さんからのご意見をしっかりと聞くしくみというのがですね、法律上もとっておりますし、またこれを実行するときもですね、しっかりと環境面での配慮というものがですね、客観的で公平で第三者の視点が入ったですね、政府が勝手にもう結論ありきでやって行くのではなくてですね、様々な角度のご意見が反映されるような仕組みをとっておる、ということをお伝えしたいと思っております、実際これ調査の期間ですね、以前から調査をやっておったのですけれども、おおよっぱな話をすればですね、多少延長してですね、これは沖縄県さんからのご要望があったのですけれども、調査の期間でございますとか、項目でございますとか、手法、そういったものを延長してですね、沖縄県と、沖縄県に意見をやる母体である沖縄県の環境影響審査会がございます、これは様々な環境の専門家とか活動家の方にも入っていただいているものと理解しておりますけれども、それを踏まえてですね、環境影響評価の手続きを取っております。実際に今年の春ですね、準備書に至るプロセスがあつてですね、今県知事さんからですね、もちろん環境団体さんが入っておられる環境影響審査会のご意見を踏まえて、県知事さんがどんな意見を出されるのかというのを待っておる訳でございます。で、これは様々な何重にもなったプロセスがございまして、その都度、県さん、市町村の皆さま、それから住民の方々、環境団体の方々のご意見を聞くプロセスもやっておりますので、私どものできる限りでですね、非常に客観的ですね、ジュゴンを含めて客観的な環境の調査をやっておるのだということをまずひとつ、もちろんご異論ご不満がございましてけれども、やっておるということを私どもから申し上げたいこととございまして

<会> それは外務省としての判断ですか？

<外務省> これでございますか？

<会> 客観的にやっているということです。実は地元でも我々もとても客観的とは言えないと、ここでも書いておりますが、

<外務省> もちろんいろんな意見があるのは分かっている訳ですけども。

<会> 北米局のご判断ですか、伊藤さんのご判断ですか、それとも外務省の判断ですか？ 要するに事業者ではないですよ。

<外務省> ええ、事業者ではございませんけれども、我々そのう、普天間代替施設を造らないといけないというのは、日米の間の約束でございますので、その約束を守るのにですね、ここにも書いておられますけれども、日本がですね、一番最後ででしょうか、「環境破壊のメッセージを世界に発信するべきではない」、これはそのとおりでございます、それだけが理由ではありませんけれども、環境を破壊するような基地を日米の合作としてですね、もちろんアメリカは事業者ではありませんが、シンボリックな意味ではですね、合作として造るなんてことは、日米関係上も国際関係上も好ましくない訳でございますから、私ども外務省として、事業者ではないけれども、十分な環境面に対する配慮をした上で、この事業を進めていくべきだ、ということを防

衛省に言っておる訳です。

<会> じゃ、今行われている環境アセスメントが客観的に正しいかどうかを判断

<外務省> もちろん、私どもはすべて法律に基づいてやっている訳でございますので、私どもがですね、外務省が法律に基づいて何か言えるのかと言えば言えないのです。ですので

<会> ただ、今外務省として主観的な判断として、客観的なアセスメントがなされている、とおっしゃったように私には聞こえたので、どうしてそんな判断ができたのか

<外務省> いや、外務省というのは人間ではございませんので、主観はないのですね。ただ、外務省が何ができるかと言えば、これが客観的なものであると良い、

<会> あると良い、とおっしゃったのですか？

<外務省> あるべきである。

<会> 分かりました。僕が誤解したのかも知れない。

<外務省> と思っております、そのことは随時事業者である防衛省にも、彼らから相談を受けるたびに言っていることでもあります。他方、じゃ外務省がこの項目を追加しろといえる法律上の権限を持っているかと言えば持っていない訳です。そういう意味で私どもは全く無力な存在でございますので、私どもはですね

<会> 2+2をやったのになぜ無力なのか。

<会> あなた方の主観からの話しですけども、あなた方政府が実際にかかわる問題として、今まで私は何度か外務省にうかがっていますけれども、今までのお話では、政府がそういう方針だから我々は政府の方針に従って法にしたがって実務をやっているだけだ、としか答えが返ってこないのですね。今度政権が変わって、アメリカと対等になると言ってますね、そのことをあなた方はしっかりやる気になっていますか？

<外務省> もちろんです。

<会> 本当？ だとすると、この決議書の1の(3)のところですね、この沖縄の米軍基地の恒久化をもたらすと、このことについて、私は今までずっと言い続けてきたのですよね、外務省は何百年アメリカに占領されれば満足するのかと、冗談じゃないよと、もう半世紀以上経って。中国の植民地は？も百年と書いてあるけれど、日本だけじゃないかと。そういうことに対して、あなた方が、憤りを持って、外国軍隊に占領されているこの状態は解消しなくてはいけないという、実務に携わるあなた方が、その気を持って仕事をしていただかないと、ことがあまり進まないと思う。で、明日からぱっと方針が変わるといえるのは難しいかも知れないけれども、変わるかどうかは知りませんが、ひとつあなた方のレベルでしっかり頑張っていたらいいと、私は要望しておきます。

<会> 先程のアセスメントのことですが、答申が今日出たというのはご存じですか？

<会> 県の審査会の答申案ですね。

<外務省> 審査会の案ですね。

<会> かなり私たちが今まで問題にしてきたことがその中で具体的に審議されている。そのところは、外務省がアセスメントに関係ないと言っても、外務省にも是非見ていただきたい。それから、あと、前の政権の中でお仕事をいらっしやって、新しい政権に変わった中でお仕事をいられて、すごくやりにくいこともあるだろうなとちょっと思いつつ、要望するのですけれど、

首相もそうですし、外務大臣もそうですし、辺野古に基地を造るのは考え直すというようなことを、かなりはっきりメッセージを選挙の前から、私たちは受け止めていた訳です。とてもその辺は何らかの変化が今度の選挙の中であるはずだという期待を国民が持ったから、今の政権が選ばれたのだ。そのような変化をやはり中に居て仕事をしていられると分かりにくいところがあるかも知れませんが、そのところをはっきりつかまえてほしいという風におもうのです。でそれで今後首相もアメリカに行って外務大臣もアメリカに行って、いろんな発言をしていますが、アメリカの中では、何だ今まで約束したのだから、それは当然約束を果たすべきだという、本当に恫喝にも等しいと思うような圧力がずっとこのところ半年間あったと思うのですけれども。でもオバマさんも、政権が変わって、その中で少しずつ、アメリカの政権の中でも、日本との対等の関係を造っていかなければ世界的な外交をやっていけない、外交をやっていくためにはそれが必要だと言い始めた人たちも出てきていますよね。そういう中で、日本との対等な関係という、日本の自主自決の権利がある、そういったことも言ってきている訳ですから。そこで約束と違った形が出てきたとしても、それは政権が変わったから当然だという受け止め方もやっぱり

<外務省>そういう方が？

<会> 政権が変わって政策が変われば、その約束のもう一度検証というか、見直しとかいうことも、やはりそれは当然俎上に上らないといけないと思うのです。アメリカはいろいろ言っているのがきこえてますけれどね。その中で岡田大臣はもうちょっとはっきり言って欲しかったなあという風にこないだのを本当にはらはらしながら私たちは見守っている訳ですよ。そういう中でできるだけ日本の主体性というか今日本が進もうとしているところを、きちっと早く出してもらった方が、何ていうか変わるのではないかと、それこそはらはらしてみているのですけれどね。で、アメリカの政権の中でも、すぐは決まらないだろうと。ゆっくり時間をかけてという人たちも出てきている訳ですから。その中で日本が少なくとも辺野古がまずいという風に思っている人たちが政権をにぎったのですから、そのところはできるだけ早く具体化してほしいという風に思います。

<会> 適当なところで切らないと

<会> 何か外務省さんから？

<外務省>一言だけ申し上げると、民主党政権になってですね、あなたたち中に居て温度が分からないのではないかという懸念があるかもしれないですけども、分かっております。ちゃんと新しい大臣から指示もきておりますので、あのう新しい大臣の指示を踏みにじるなんてことは一切考えてもいません、できもしないし考えてもいません。そこは大丈夫です。

一個だけ日米合意ということだけでいえばですね、私ここで、皆さんと仲良くしたいという気持ちで 8割ありながらですね、一個だけ言わなければいけないことは言おうと思っておりますけれども。日米合意はですね、今後どういう形になるか分かりませんが、政権が変わったら合意なんてうっちゃればいいのかというのです、それは外交としてそうはいかないのです。例えばですね、逆のこともある訳です。我々が鳩山政権になった、だから自民政権時代の合意はちゃらだぞと法的は言えないのですけれども、仮に言ったとしたらですね、アメリカでオバマ政権が終わって次に何とか何とか政権ができたときに、辺野古撤回だとオバマが約束

したけれどもやっぱりその約束は撤回だと言われたらですね、国と国との関係がうまくいかないのです。だから、日米合意というのは非常に重いのですよということだけは申し上げたいのですけれども。その上で、総理、外務大臣はじめですね、こういう計画になった経緯を検証してですね、どういう選択肢があるか考えなくてはいけないとおっしゃっていますので、そのインストラクションに従ってですね、ちゃんとやっついこうと思っています。

<会> 我々は、あなた方が民主党の政権で日米が対等になるのだということを押シユする方向に行くのか、それとも今までのいきさつがあるのだから、アメリカとの約束はくずせませんという理屈で、民主党の足を引っ張って、自民党路線を継続しようとするのか、それが私は大きいと思っているので、あなた方の奮起を期待しています。

<外務省>ありがとうございます。私ども、私は、自民党でも民主党でも何党でもありませんので大丈夫です。

<会> 皆さんが今までやってきたから、それを踏襲したいという気持ちがあるでしょうと想像できるのですけれど、それにこだわらないで、確かに国と国との約束を守ろうというのも分かりますけれど、ただ一報で政権が変わって方針が変わって国民の意思が変わっている訳だから、それに応じて今度は相手方のアメリカに説明して何とか納得させて辺野古を止めるというのも一つの選択だと思うのですね。今の政権はそういう風に動くように要望されていると思うのです。<外務省>もちろん足を引っ張る気もありませんし、これは自分のことをうぬぼれて言っているかも知れませんが、自分がこれまでやってきたことを変えるのが嫌かと言われたら、いやじゃありません。変えるのが正しいことであったり、あるいは変えろという指示があれば、私は何のポリシーもありません、変えます。

<会> 期待しています。

<会> ところで、日米合意は条約ではないですよね？

<外務省>グアムは条約です。

<会> SACO 合意に基づく日米合意は条約ではないですね。

<外務省>はい。

<会> グアムもあなたがされたのですか？

<外務省>ええ少し。

<会> あれは本当にひどかったですね、ずっと見ましたけれど。本当に属国としか思えない…

<会> どうも。

以上